

会 議 録

| | | | |
|---------------------------|---|--|--|
| 会議の名称 | 第17回小金井市子ども・子育て会議 | | |
| 事務局 | 子ども家庭部子育て支援課 | | |
| 開催日時 | 平成29年7月4日(火) 19時から時20分15分まで | | |
| 開催場所 | 小金井市役所第二庁舎8階 801会議室 | | |
| 出席者 | 委員 | 会 長 松田 恵示 委員 会長職務代理 新保 佳子 委員 委 員 岩野 秀夫 委員 小幡 美穂 委員 水津 由紀 委員 高橋 みさ子 委員 鳴海 多恵子 委員 布谷 美幸 委員 原島 康晴 委員 森田 眞希 委員 欠席委員 飯嶋 智広 委員 小川 順弘 委員 沢村 耕太 委員 馬場 利明 委員 | |
| | 事務局 | 子育て支援課長 梶野 ひづる 子育て支援係長 福井 英雄 子育て支援課主事 宮尾 麻里 子ども家庭支援センター一等担当課長 秋葉 美苗子 保育課長 菅野 佳高 保育政策担当課長 平岡 良一 保育係長 中島 良浩 児童青少年課長 伏見 佳之 | |
| 傍聴の可否 | (可) ・ 一部不可 ・ 不可 | | |
| 傍聴者数 | 9人 | | |
| 会議次第 | 1 開会 2 平成29年度保育施設待機児童数 3 平成29年度学童保育所入所状況 4 その他 5 閉会 | | |
| 発言内容・ 発言者名(主な 発言要旨) | 別紙のとおり | | |
| 提出資料 | 資料65 平成29年4月現在の0～11歳人口について | | |

| | |
|-------|--|
| | 資料66 平成29年度保育待機児童数について 資料67 平成29年度学童保育所入所状況 |
| そ の 他 | |

第17回小金井市子ども・子育て会議 会議録

平成29年7月4日

開 会

○松田会長 それでは、第17回小金井市子ども・子育て会議を開催いたします。今期の委員任期は7月27日までということで、本日が任期期間中の実は最後の会議になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

 また、本日は、飯嶋委員と馬場委員から欠席、水津委員と沢村委員から遅刻とのご連絡をいただいておりますので、あらかじめご報告させていただきたいと思ひます。

 それでは、次第に従ひまして審議に入りたいと思ひます。

 まず、配付資料の確認を事務局からお願ひいたします。

○子育て支援係長 配付資料です。まず、子ども・子育て会議次第、1枚になります。続いて、資料65、0～11歳人口について、1枚です。続いて、資料66、待機児童数（速報値）についてです。続いて、資料67、学童保育所入所状況になります。

 資料については以上になります。

○松田会長 ありがとうございます。

 それでは、早速ではございますが、次第（2）「平成29年度保育施設待機児童数」について審議を行っていきたいと思ひます。

 では、まず、資料のご説明を事務局のほうからお願ひいたします。

○子育て支援係長 私のほうからは資料65についてご説明いたします。

 平成29年4月現在の0～11歳人口について、子ども・子育て支援事業計画（改訂版）における児童人口推計と実績数とを比較したものになります。

 児童人口推計は、事業計画における各事業の需要量を算出する際の基礎となるものですが、改訂版では、平成28年10月1日現在の児童人口実績を踏まえ、児童人口推計を変更いたしました。

 改訂版以前の従来計画では、児童人口推計と実績数との乖離が顕著であり、特に待機児童の関係で注目されます0～2歳人口につきまして、計画策定直後の平成27年4月の時点から、0歳で112人、1・2歳で計75人の乖離がありました。今回の改訂版では、平成29年4月時点で0～2歳人口につきまして、0歳でマイナス2人、1歳でマイナス

21人、2歳でプラス2人と、実績数との乖離はかなり小さくなっているところでございます。

資料65については以上になります。

○保育政策担当課長 引き続きまして、資料66について保育課よりご説明をさせていただきます。

資料をごらんください。こちらは、平成29年度待機児童数（速報値）でございます。1の需要供給別の表につきましては、各年齢ごとの需要数と施設区分ごとの供給数を表にしたもので、その差が待機児童数となっております。本年4月1日付の待機児童数は、速報値でございますが、156人となりました。昨年度の4月1日現在の待機児童数が154人でしたので、2人増えた形となっております。

なお、昨年度末に改定しました子ども・子育て支援事業計画における待機児童数の見込みは、この資料には記載はございませんけれども、141人という見込みでございましたので、そこから申し上げましても、差し引き15人の乖離という結果となりました。

次に、その下の2については、町別の待機児童の分布状況を表にまとめたものでございますので、参考にごらんいただければと思います。

待機児童数の増加の要因につきましては、さまざま考えられますことから、他市においてもなかなか予測が難しいところでございます。担当としましても、統計をとったわけではございませんが、保育園の新規開設による潜在ニーズの掘り起こしや、女性の復職ニーズの増加などが主な要因ではないかという所感を持っているところでございます。

なお、需要数や確保内容にかかる計画値との比較については、次回以降の会議にて、改めて計画の進捗状況の報告という形で資料をお出ししてご報告することとなっておりますので、大変雑駁ではございますが、本日の説明はこの程度とさせていただきます。

説明は以上です。

○松田会長 ありがとうございます。

29年度の保育待機児童数についての説明でしたけれども、委員の皆様方からご質問が何かございましたらお願いしたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

○岩野委員 待機児童数発生理由ということで、見込みとして2点挙げていただきました。2点目の内容が、ちょっと今、聞いた限りでうまくつかめなかったもので、もう少し説明していただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。1点目が潜在ニーズ、もう一つが、女性の復職……。

○保育政策担当課長 すみません、女性の復職ニーズという言い方をさせていただきましたが、職場に

復帰される、そういうニーズがやはりこのところ世の中全体として増えているのではないかと、そのようなあたりを思っているところでございます。

○岩野委員　　今の表現を言いかえると、これまで子ども、子育てを理由に退職されるような女性が、ここで保育施設等が充実してきたので、職場に復帰する傾向が強まったというふうに捉えてよろしい内容でしょうか。

　　以上です。

○保育政策担当課長　先ほど冒頭申し上げたように、統計上、とっている状況ではございませんが、国を挙げてのそういうような取り組みを行っているという状況もございますので、単なる潜在ニーズの掘り起こし以外の部分もあるのではないかというふうに、臆測ですけれども、捉えているという状況です。

○岩野委員　　ありがとうございます。

○松田会長　　ほかはいかがでしょうか。

　　基礎となります児童人口推計においては、見込みの修正を昨年度末に行いまして、改善の傾向が、捉える数字としては若干見られていると、若干といたしますか、相当見られていると。ただ、それでもなかなか、この乖離というのは100%埋まらないというところがほとんどですけど、一方で、待機児童数というものは、ほぼ横ばいになるというような状態というあたりで、これ、速報値といたしますか、現在の状況だと思っておりますので、引き続き、本会議でも次期の策定をいただくということですので、注意深くちょっと見ていくということになりますかね。

　　ほかはいかがですか。よろしいですか。

　　そうしましたら、次に、次第の(3)「平成29年度学童保育所入所状況」について、また事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○児童青少年課長　資料67番、平成29年度学童保育所入所状況についてでございます。29年5月1日現在の各学童保育所別の人数でございます。詳細については資料をごらんいただきたいのですが、ちなみに、29年3月改定のありました数字では、955人が低学年の量の見込みでございました。これは5月1日の数字になりますが、4月1日現在では972人という状況になりますので、誤差が17人というような数字になります。

　　以上でございます。

○松田会長　　ありがとうございます。

　　資料67のほうで学童保育所の本年度の入所状況についてご説明いただきました。こち

らの件につきまして、何かご質問等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○原島委員 大幅な乖離がないというふうに、学童保育の入所状況については、見直した計画と大幅な変更はないというふうに捉えられるかなと思うんですけども、一方で、各所の定員と実際に在籍している計のところを見ますと、大規模化というのが浮き彫りになるのかなと思いました。これから課題の解消に向けて努力していただく課題だと思いますけれども、引き続き、大規模化の解消を視野に入れて、質を落とさずにやっていただければと思います。

あとは、障がいのある児童がこの括弧の中で示されている数だと思うんですけども、やっぱり学童保育所によって人数の偏りがあるのかなというのが気になりました。前回か、小幡委員のほうから、学童保育所における加配のことで少し触れていただいたと思うんですけども、そこもご努力いただいていると思うのですが、引き続き、障がいのある子もない子と一緒に保育ができるように努力していただければと思います。

質問というより、ちょっと要望になってしまいました。すみません。

○松田会長 ほか、いかがでしょうか。

○森田委員 実際の出席率といいますか、計何人とあります、全員が毎回出席しているとは限らないと思うんですけども、でも、多いのでしょうか。

以上です。

○児童青少年課長 なかなかちょっと難しいところはあるんですけども、週に6日ありまして、土曜日などはほとんど1桁というような状況もあり、全体でまとめますと80%前後かなという状況にはなっております。

以上です。

○原島委員 今、課長が、全体で見ると80%というのは、春休みとかの三期休業中も含めての全体という理解でよろしいですか。

○児童青少年課長 具体的に何月に何%というところまでまだ出していないので、ちょっと何とも言えないんですけども、大体、平均すると、三期休業中も含めて80%前後かなという状態になります。

○原島委員 ありがとうございます。

○松田会長 ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

では、こちらの本年度の現在の状況ということで、学童の問題も、本会議でもほんと

うに大規模化の議論なんかがされているところがございますので、そのような観点をしっかりと酌んでいただきながら、引き続きご努力いただくということをお願いしたいと思えます。ありがとうございます。

そうしましたら、本日は、その他というところを残すのみになったわけですが、先ほどもお話ししましたように、今期の子ども・子育て会議は、任期ということで本日最後になるということです。今期もさまざまにご意見やご議論をいただいたり、新しい課題もたくさん出ていたと思うんですけども、ぜひ、今期、委員としてご参加くださいまして感じられていることや、あるいはご意見、さらには、次期の会議にこれは引き継いでいかないといけないということでもございますので、次期の会議にはぜひ引き継ぎをお願いしたいというようなこと等を、お一人お一人、委員の皆様方からいただきまして、今期の会議を閉めるということにしたいと思っております。

こういうことを急に言われまして、すぐに岩野さんなんてなっちゃうと、皆さん、何をというのがちょっとまとまらない中でのお話になられると思いますので、幾分ちょっと時間をとりますので、言い残すようなことのないように、頭の中で少し思い起こしていただいた上でお話をいただければと思っております。

今、時間をつなぐということではないんですけども、あまりこういうことを言うと、小金井の市役所の皆様方にちょっと怒られちゃうと思えますけれども……。

新保委員と僕は多分同じことを、それと、いつもご参加いただいている市民の皆さんの、あの一番後ろの列の方がいつも同じ感覚でいらっしゃると思うんですけども、省エネというのは非常に重要なことで、そういう意味では、こちらもしっかりと蛍光灯が両端が外されているわけなのですが、ちょっと暗いんですね。そんなことはお感じになられたことはないですか。目が悪く……。申しわけないんですが、若干ですね。

全然問題はないんですけども、そんなことをちょっと思っていたときもありました。すみません。でも、かといって、これをはめてくれというような要望は決してございませんで、こういうこともあったなというような、ほんとうに時間つなぎのちょっと感想でございますけれども。

では、一通りお話を聞いていくということで回していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、時計回りにということで、岩野委員からお願いいたします。

○岩野委員 前の任期も含めて丸4年、子ども・子育て会議に携わることができました。拙い意見

もあったかと思いますが、どうもありがとうございました。私の下の子も今年度末で保育所、うまくいけば無事に卒所になりますので、私、保育施設を利用している保護者という枠で出席させていただいていたんですけれども、その枠での出席というのは、おそらくこれで最後になるかと思います。

最後なのに、ちょっと苦言を呈するようになるので、まことに申しわけないんですけれども、私が利用させていただいているのは市の公立の保育所になります。市の公立の保育所が今、民間移譲の問題の真ただ中にあるわけです。私の子どもが利用している施設も、民間移譲の対象の施設として名前が挙がっております。実際、この件に関しましては、運営協議会が立ち上がっておりまして、そこで話し合いが行われているんですけれども、すみません、これは、委員というよりも、ほんとうにその施設を利用している保護者としての話に偏るようで不適切かもしれないんですけれども、運営協議会の議論の推移を見ると、少し保護者に対する説明が万全ではないところがあるように感じる 때가間々あります。確かに、民間移譲を行うことによって、財政面での恩恵というのは市にとってはあるんでしょうけれども、そこで、この子ども・子育て会議の席でも何回も出たんですけれども、質の面、特に保育の質というのをないがしろにしてほしくないなと考えております。

今の市の公立の保育施設の利用者の満足度というのは非常に高く、約95%の満足度というふうに出ているんですね。もちろん民間移譲をすることによってこのパーセンテージが上がればいいんですけれども、いかんせん、私、もう一方、学童でうまくいかなかった民間委託のところの利用者でもありましたので、簡単に財政面だけで、質がないがしろのまま民間移譲に話が進んでしまうことに関しては、どうしても拭い切れない不安というのがあります。おそらく、次の子ども・子育て会議の議題の一つに保育施設の民間移譲の話が出てくると思います。その件に関しては、次のこの枠、保育施設利用者の保護者の枠で申し込まれている委員の方にいろいろと意見を言っていただくことになるかと思うんですけれども、やっぱり大事なものは保育の質というのを忘れないでほしいなということです。

おとし行われました保育検討協議会、ここでも委員からは、財政面だけで民間委託に流れることに関する反対意見が出ているはずですよ。検討協議会でそういう反対意見が出ているというのをぜひ真摯に受けとめて、保育園運営協議会でも、民間移譲の必要性をきちんと現在の市の公立保育施設の保護者に理解を得るような形で、ぜひ、この民間

移譲の議論を進めていただきたいと思います。財政面だけを理由に拙速な議論にならないように願っております。

最後にちょっとそういう苦言を呈すようで、まことに申しわけないんですけども、子ども・子育て会議の皆さんと有意義な議論を交わせたこの4年間は、非常に私の財産になるかと思えます。どうもありがとうございました。

○松田会長 では、小幡委員、お願いいたします。

○小幡委員 私も、前回から2期4年ですね、岩野さんと一緒に4年間やらせていただきました。ほんとうに私、しゃべるのが苦手で、特にマイクがそこにあるのはとても苦手なんですけれども、ほんとう、その緊張した中でしゃべらなくてはならなくて、いつも頭が真っ白になる中を会長に助けていただきながら、ほんとうにありがとうございます。

私は、幼稚園のほうの視点、保育園の視点が結構多かったので、幼稚園のほうの視点と障がいに関して、障がいを持っている子どもたちの観点に関してちょっとお話をさせていただくことが多かったのかなと思います。委員をおやめになってしまいましたが、佐々木先生がいらっしゃって、やはり幼稚園のことをとてもおっしゃっていました。私立幼稚園に対する市のほうからの補助をもっとというお声を、よくお話をされていたなと記憶しています。ほんとうにそうだと思います。ほかの、保育園も特にそうだと思いますけれども、幼稚園に関しても、そこにいる子どもたちがやっぱり差があってはいけないなと思いますから、特に私のほうから感じるのは、ちょっと手のかかる子どもたちへの、例えば加配があれば受け入れられるんだけど、その余裕がないので、断るしかないんだという声も聞いたことがあります。そういう意味では、やはり充実していくといいなと思っています。

もう一つは、私、学校のほうにボランティアで入ってまして、今、ボランティアセンターと教育委員会のほうとちょっと働きかけて、加配まではいかないんですけども、ちょっと手が必要な子どもたちの助けになるようなボランティアができればいいなと思って活動をしています。そのきっかけは私の息子だったんですけども、やはり集団生活が難しく学校のほうに付き添っていたときに、自分の子どものために入ったんですけども、実際にはそれ以外にもたくさん、手が必要な子どもたちがいました。そこでいろいろな子どもたちの声を聞いて、ああ、そうか、やはりこういう声を受けとめる大人がいる必要はあるんだなと感じたことと、あと、学校の先生の忙しさですね、その忙しさを身近で感じて、先生は何とかしてあげたいと思うけれども、手が足りない。そう

いう意味で、何か、助けの一つになるかどうかともわからないぐらい微力なんですけれども、できればいいなと思って今、活動しています。

そういう意味ですと、子どもの声を聞くというのはとても大事なことで、その子が何かをするには必ず理由があるわけで、その理由を聞かないで、何か上から言うてしまうことで子どもが傷ついてしまうことってたくさんあると思います。また、そういったことがあった上での政策だったりであってほしいと思っていますし、私は、ここの会議の中ですごくいいなと、有意義だと思うのは、いろいろな方がいろいろな目線で、いろいろな子どもの声を拾って、または子どもの周辺、親だったり、保護者とか、支援者の方もいらっしゃると思いますけれども、そういった方の現場の声をこの中でお話していただく、それを私は聞いてすごく勉強になりましたし、そういう考え方があるんだ、そういう声があるんだということをこの場でいつも感じながら、いさせてもらいました。

この会はずごく注目度も高いですので、そういう意味ですと、とても影響力があると思います。私は今回で最後になるんですけども、これからもこの会議が子どものためにある会議であってほしいなと思います。どうもありがとうございました。

○水津委員 次に戻ってきたのでしょうか……。

○松田会長 今、その他の、最後の議事に行っていて、今日が今期の最後の会議になるということで、ぜひ、そのご感想等々、それと次の会議のほうへ申し渡したい、引き継いでいただきたいというようなことをまとめていただいているという状況です。

水津委員、今いらっしゃったので、急に水津委員ということも大変だと思いますので、ちょっと一番最後に回していただいてということをお願いしたいと思います。

では、高橋委員、お願いします。

○高橋委員 私は、2期目から委員にさせていただきました。子育て会議の中では、待機児童の問題であったり、保育料の問題ということで保育園にかかわる議題が多かったと思いますが、皆さんと少し違うところは、運営費をいただいて運営している立場で、ちょっと意見が言いにくい話題も多くて、あまりきちんとした意見が言えなかったと反省しております。

ただ、何度もちょっと議題から外れて申しわけなかったんですけども、質の問題ということになったときに、さまざまな事業体がどんどん保育園をつくっていく中で、公立、民間というくり方ではなくて、どういう保育をしているかとか、そういうことで

すね、どういった内容で運営しているかとか、子どもたちがどういう生活をしているかとか、そういったほんとうに質の問題をやっぱり市がきちんと把握をして監査していく。民間の認可保育所は、東京都が以前は2年に一遍ぐらい指導検査というのがありまして、かなり厳しくその内容をチェックされていたんですけども、今は保育園が増え過ぎて東京都も追いつかない、それから、小金井市もまだ、市が独自ではあまり検査体制は整っていないと思うんですけども、もしほんとうに質ということであるならば、小金井の子どもたちは同じわけですから、どの事業体がつくっている保育園でも、民間は民間というとか、民間だから口が出せないとか、民間にはカラーがあるとかそういったことではなくて、質という意味で、きちんと取りまとめていってほしいなという希望があります。

また、私どもは社会福祉法人なんですけれども、社会福祉法の改正がありまして、法人は、地域の中で公益的な取り組みを進めて、地域にもっと貢献しなさいという国の指導があるんですけども、そういった中でやはり民間の保育園、民間の事業体にもできることがたくさんあるので、そういったところを、小金井市の子どもたちという見方からもう少し取りまとめて、今後の計画に生かしていただきたいと思います。と思っています。

私は、たまたま民間園長会でもう1期続けるということになりましたので、あまりきちんとした意見が言えなくて、ですけども、一生懸命考えていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○松田会長 では、続いて、よろしくお願いいたします。

○布谷委員 私は、今回初めてで、しかも途中からの交代みたいな感じで参加させていただいて、幼稚園の保護者代表で、みずから市報を見て応募させていただいたんですけど、その大もとになったのが、小金井市に転入してきて、小金井市の幼稚園の子どもたちの約半分、40%という数字が出たんですけども、私は、半分ぐらいの子が普通に小平とか調布とかの幼稚園に行っているのがどうしてなんだろうと。前、引っ越してきたときの市は、みずからその市に行くのが普通だったのに、小金井市は一体どういう施策をとって、市外に行っているんだろうという疑問があって、実際、自分の目で確かな情報を知りたいというので応募させていただいたのがきっかけなんですけど、実際、携わってみたら、毎回のこの資料の多さと、私のような無知識で、ただ疑問を持っている者が入って、皆さんにちょっととんでもない発言も多々あったかと思うんですけども、私にと

ってはずごく有意義な、日常とはまた違った有意義な場でもあって、また、文言もいろいろ難しかったんですけども、自分でまた調べたりとか、ちょっとなんですけれども、自分の中ではこういうふうな携わり方ができてよかったというのが心境ではあります。

今回、これで1期目は終わるんですけども、今までこの会議の中で決まって、たくさん、すばらしい先生方のもとで出た意見が、この小金井市の少しでも実践力となって、よりよい市の子育て環境に役立っていけたらいいなと思って、また引き続き、今まで出た意見をもとにそれが実りあるものになるように、また次もお引き受けさせていただいたので、またちょっと子どもを連れて参加するようにはなるんですけども、子どもたちのために頑張っていて、何か自分でできることを勉強してやっていきたいなと思うので、よろしくをお願いします。

○松田会長 では、原島委員。

○原島委員 私は、この1期というのかな、2年間だけお世話になりました、どうもほんとうにありがとうございました。私は、学童保育の利用者の代表というような形で派遣されてきて、この場に来て、ほんとうに保育園の保護者の方、小学校の教員の方、障がいのある子の親御さん、幼稚園の方とか、保育園の実際の現場で働いていらっしゃる方とか、さまざまな人たちが集まって子どものことを一生懸命話すというのは、すごくほんとうに刺激的で、楽しくて、多分、自分自身も少し成長できたんじゃないのかなと思っています。ほんとうにありがとうございました。

学童保育については繰り返し言ってきたので、もうみんな、聞きたくないぐらいだと思うんですけども、やっぱり大規模化、それから障がいのある子どもとない子が一緒に育つ場をどうやって構築していくかということ、これは引き続きの課題として、次期以降、引き継ぎ事項として取り組んでいただければと思います。

今思えば、この会議はほんとうにすごいたくさんのことを話す場で、そのうちの学童保育なんていうのはほんとうわずかなことで、保育園の保護者の方の負担金といいますか、育成料、保育料の値上げのことまで、まさかここでやるとは思わなくて、何もその予備知識的なことがない中でそんな大事なことを決めるというのは、ほんとうに傍聴席からの視線が怖いといいますか、うかつなことは言えないけど、でも、何か言わなくちゃというようなプレッシャーもすごくありました。

たしか、その議論の中で、育成料ででき上がった財源については、保育施設や保育士の待遇改善を中心に子ども・子育て関係のことで使っていくというようなことだったと

思いますので、これも引き継ぎ事項として、次期以降、どのように保育環境が向上していくのかということ話し合っていたらいいなと思っております。

総じて感じたのは、漠然と感じているのは、学童のこと、保育園のこと、学校のこととかあるんですけども、やっぱり一番大事なのは、小金井のこの会議では子どもの権利条例が中心になるのかなと感じました。子どもの権利条例というのを私も学童の関係の人には引き継ぎ資料として渡しましたけれども、初めて参加する人で、もしご存じない方がいらっしやったりするといけないので、よく読んでいただくというのが大事なのかなと思いました。

今思えば、もうちょっと子どもの意見だとか、子どもにとってどうなのかというようなことを中心に議論を進めていくと、保育の質とかそういうような話にも比較的近づくといいですか、そういう議論が深まるきっかけになったのではないかなと思うところもあります。ですので、学童に関していうと、大規模化にしても、障がいのある子、ない子、一緒に育つ環境づくりにしても、やっぱり子どもの権利条例というのを中心に考えていくといいのかなと思いました。

それから、保育の質ということはどう定めるかというのはすごい難しいところだなと思います。どういうふうな文言化をしていくのか、どういうふうなチェック機能をつかっていくのかというのはすごく難しいところで、一方で、私も学童にいて、8年間、学童保育を利用していますけれども、その中で民間委託というようなことがあったりする中で、保育の質の維持と向上ということを念頭に民間委託というような選択を学童はしたんですけども、先ほど岩野委員からお話があったように、1カ所でやっぱりうまくいかない事例が出てきてしまったり、それはただ民間委託でしたので、直営に戻すというようなことができたんですけども。

一方で、保育の質を保つというのと同時に、利用者のほうも年々変わってきているなとも感じていて、市の職員の方々が直面するのは、質の維持ということと同時にサービスの拡充、時間を延長してほしいとか、もっと受け入れてほしいとか、今までなかったようなオプション的なものを市のほうでやってくれとか、そういうような要望の声とはさまにいらっしやるのが市の職員の方々なのかなというふうにも思いました。ですので、質の維持とか、質をよくというようなことがある一方で、サービスの拡充を求める声、質の維持とかということを難しくさせるような場面というものもあるのかなと思うので、このあたりは適宜、みんなでいろいろな知恵を出し合って、この会議ならではの

何か意見が出てくるといいなと思っております。長くなりましたけれども、2年間どうもありがとうございました。

○松田会長 では、森田さん。

○森田委員 どうもありがとうございました。ほんとうにとんちんかんな意見を言って、ほんとうに失礼いたしました。感情が先走って、うまく言葉が繋がらなくて、でも、昼間の仕事の中で、私のところのNPO法人地域の寄り合い所また明日という場所には、0歳の赤ちゃんから100歳の高齢者の人もいて、その間の人たちもみんなそろっておまして、日中過ごしていると、この人たちの代弁者にほんとうはならなければいけないのに、それをきちんとできていない自分の歯がゆさというんですかね、ほんとうは一番聞いて、耳を傾けなければいけない人たちの声にならない声というんですかね、それをうまく伝えていけない自分のふがいなさというのをほんとう毎回毎回感じておりました。

ほんとうは今日もこの場に、まないたに実はうちののるんだったんだけど、保育士が、とにかく保育士、人数を増やすに当たっても保育士確保のところ、また、保育士であれば誰でもいいというわけでもなく、その辺のところ、たいへん保育課の方々にはご迷惑をずっとおかけして申し訳ありませんでした。ただ、何とか、問い合わせがある、特に1歳の子どもたちの受け入れを一人でも増やしたいなと思いつつも、その現場で受け入れる体制が整い切れないところのジレンマもとてもあります。ただ、それは引き続き努力していこうと。

今、あそこの前の開発も、あそこは2,000人増えるんですね。ということは、子どもたちが何人増えるかなというふうにならんとちょっとときどきしつつ、一方で、保育園をやっているだけでも当分潰れないで済むかな、それは運営する者の見方で、大丈夫かなと思ったりしています。

子どもたちを見ていても、ほんとうに大人のいろいろな部分のしわ寄せを食っているなということも日々感じながら、最近は10代、20代の若者たちも出入りが多くなっておりまして、時々彼らを見てみると、小さいころの過ごし方、どんなふうな状況だったのかなということをよく考えるんですね。ついこの間、10代の子で、ずっとひきこもり、あるひきこもりの若者たちのグループのところから来ている子なんですけど、ここに、また明日来ると、赤ちゃんもいるし、お年寄りもいるし、私もいたから楽しかったと言ったんですね。何かそれがすごくぐさつきで、それは、大人が効率よくとか、数字というところに目が行っているときに、そうやってこぼれていった子どもなんじゃない

かと思うとほんとうに胸に迫りましたので、そういう子どもたちが来るというところで、じゃ、これは質がいいのかといたら、ちょっと自信は持てない部分もありますが、でも、これからもそういった声にならない声を拾っていきたいなと思っております。またどうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○鳴海委員　お世話になりましたありがとうございました。私は、この会議でとても強く印象に残っているのは、毎回傍聴席が埋まっているということなんですね。テープレコーダーがある以上にとっても緊張感がありましたし、その関心の高さとか、それから責任の重大さというのは毎回感じておりました。それに応えるように、委員の方々が非常に積極的に発言をされるというのも印象に残りました。

この会議はかなり重大な議題も多かったと思うんですけども、六、七年前に、この会議にかかわる前に、私自身が仕事の関係で保育園と幼稚園の園長会議に参加させていただくという機会があって、小平市と小金井市にお願いをしたんですね、市に。そのときに、市と保育園、そういう施設との関係性の差がとても気になったんですね。小金井市がとても希薄だと、率直に言って、小平市に比べてとてもかわりが薄いというのが感じられまして、とても心配しました。ただ、今回のこの会議、4年間でしょうか、通して見ていって、傍聴席の関心とか、それから議論の高まりというのを見て、すごくその点が改善されてきているんじゃないかなということも実感として感じています。きっと私のような印象、私はもう払拭されてきていますけれども、これからどんどん小金井市はそういう点でも充実されてくるんじゃないかなという期待が、この会議を通して感じられました。

それからもう一つ、私は、この会議、実はちょっとつらいところがありまして、やっぱり皆さんのように、自分自身に課題意識がすごく薄かった。だから、毎回、皆さんの意見を聞いて自分が勉強していくというところがあって、なかなかお役に立つような発言ができないなというのはちょっと苦しかったことがあります。

それと、この議題の中に評価というのがあったんですけども、あれも非常に難しく、以前、新保委員からもそのやり方についてご意見がありましたけれども、やはり市民の目線なのか、市と市民の間に立つ人間なのか、自分がどこで意見を言ったらいいかというのがまず、わからなかった。そして、その評価すべき事業について、自分が認識がほとんどない、その中でAとかBとかをつけていくというようなこと、それから、記

載の仕方ですね。そんなところで、責任が重いわりには、それに自分が十分応えられないということで非常にジレンマを感じたところでした。ぜひその点は、次回、これから改善されたらいいんじゃないかなと思ったところです。その2点です。どうもありがとうございました。

○松田会長 では、新保委員は職務代理ですので、ここで水津委員のほうにお願いします。

○水津委員 すみません。本日は遅刻いたしましたので、どうもご迷惑をおかけしました。あと、この間、前回欠席ということになりましたので、大変申しわけありませんでした。歩けるようになりました。

それから、私の感想としましては何点かあるんですけど、1つは、この武蔵小金井駅周辺で仕事をしていて、非常に保育園のお散歩という光景にすごくよく出会うようになりました。それだけ、この周りに保育所というものが増えたんだなということはわかります。ただ、待機児童が残念ながらこのような状況ということは、抜本的にどう考えなければいけないのかなというのが日々思っていることの一つです。

あと、個人的に、孫が来年、幼稚園に入るんですけど、小金井緑町のほうに住んでいますから幼稚園がないんですよ。そうなったときに、幼稚園をどう選ぶかというのが非常に今、大変な話題になっておりまして、自分の学区の小学校に行く、その子どもたちが多く行っている園を選びたくても、あまりにもばらばらなので、どこをどう選んだらいいのかもわからないというのが、ほんとうにそういうものなんだということを実感して、地域で子どもを育てるという観点を考えたときに、数が合うからいいとかそういう問題ではないんじゃないかなというのをすごく痛感しています。

あと、私は子育て・子育て支援ネットワーク協議会の代表ということでここに来させていただいておりませんが、ネットワーク協議会では、先ほども言いましたように、子どもたちは地域で、小金井の子は地域で育てるということで、地域の大人のネットワークを強化しながらさまざまな支援をしていこうというところをバックアップする中間支援組織として、どう取り組めるかということが今、課題になっていますが、子どもの子育て施策というのは、1つや2つや3つや4つじゃなくて、すごくいろいろな多角的にあって、年齢も0から18歳までなのかな、そういうふうにと考えるといろいろなものがたくさんあって、そのことをここで、限られた時間で審議していくということは非常に難しいのと、責任があるなと思うことと、でも、それでもやっぱりやらなくちゃいけないなということを感じながら、4年間参加させていただいています。今後もよろしくお願

したいと思いますし、私もますます勉強しなくてはいけないなと思っているところです。
ありがとうございました。

○松田会長 ありがとうございました。

 では、新保さん、お願いします。

○新保職務代理 私は、すごく皆さんとは違うところが、この会議にもものすごく長くかかわっているんですね、実は。先ほど原島委員がおっしゃっていたことで思い出しましたけれども、子どもの権利と、児童福祉審議会と、それから、こののびゆくの会議が同時に始まった時期に、だから、立ち上げのころから私は実はかかわっていて、ほんとうにそのときは自分の考えの浅いこととかそういうことを嫌というほど思い知りながら、私のこの会議のかかわりのスタートだったんですね。そのときは、ほんとうに小さい会議室で、傍聴者も一人もいず、みんなそれぞれ何か自分たちの子育ての悩みも話しながら、いろいろな小金井市全体のことを話をしていたという記憶があります。

 ですので、私自身は実際、こののびゆくの策定に3回かかわっているんですね。1回はちょっと途中でかわりましたし、途中で委員もかわったりしましたけれども、すごく、今思えば十四、五年ぐらいの、途中、抜けた時期もあるんですけど、かかわって、何でこんなことを私がやらなきゃいけないのかなと思いながら、皆さんのこの熱心な方たちに囲まれて、ほんとうに勉強させていただいたと思います。

 思いがけず、この4年間は職務代理という立場に座らせていただきまして、ほんとう先生のご指導のもと、そして、私がいつも願っていたことは、今日は先生がちゃんと来ますように、私は司会をしなきゃいけないものですからね。だから、先生、ああ、よかった、よかったといつも思いながら。ただ1度、最初から最後までやったときがあったんですよ、私か。そのとき、もうどうしようと思いながら、でも、皆さん方の力に励まされて、最後は、自分で言うのもなんですけど、傍聴者の方が拍手をしてくれたことが、ほんとうに私にはこれからも忘れられないこととなると思います。

 ほんとうに長い間かかわってきたんですけど、私はこれでもう最後になると思いますので、ほんとうに熱心な方たちと一緒にこの時間をともにできて、ほんとうに大きな財産だったし、私の願いは、トワイライトが必ずや実現できるようになる、しかもなるべく早い時期に。必ずこのトワイライトの利用者というのは増えていくと思っているんですね。ただ、今、なかなか施設運営のことも考えると、トワイライトをどこで受けくださるのか、また、市がどういうふうやっていくのかというのは、非常に大きな

課題をずっと市は考えていたとは思いますが、一応、平成31年にはこのトワイライトの数が入っておりますので、またいろいろなサービスが充実してきて、この小金井で子育てのしやすい環境が一つでも増えていくということが私の願いです。

今年から子ども家庭支援センター等担当課長というポストもできて、直属の課長ができて、市の庁舎の中でも子ども家庭支援センターに対しての支援も増えていくと思いますので、そういう充実がますますなされることを願っております。

以上です。ありがとうございます。

○松田会長 委員の皆さんから一言ずついただきまして、また次期の会議にしっかりと引き継いでいかないといけないこと、あるいは、ほんとうに今期の会議で問題になったこと、あるいは、ある種、成果というものも含めてお話しいただいたなどと思って伺っていました。

最後に、あまりこういうことは普通ではないかもしれませんが、事務局、市役所の皆様方にもほんとうにお力添えをいただいてというふうになんかちょっと感じるところがございまして、簡単に一言いただけたらありがたいのですが。

○子育て支援課長 全員ですか。

○松田会長 それは課長にお任せします。

○子育て支援課長 本日はまず、大澤子ども家庭部長、所用があって欠席で、大変残念がっておりました。皆様によろしくということでしたので、どうぞお許しく下さいませ。

松田会長と職務代理、暗くて申しわけございませんでした。もっと早く言っていただければ、もっと明るくしたかと思っております。

○松田会長 いえいえ、とんでもない。ほんとうに忘れてください。

○子育て支援課長 お二人の明るさでこの照明の暗さもカバーしていただいて、明るい会だったと思っておりますけれども、今期に関しましては、保育料、利用者負担についての諮問に答申をいただいたり、また、計画変更もありました。ほんとうに重要なことを熱心にご議論いただきまして、ありがとうございます。1年の開催回数が他市に比べると非常に多いほうだと認識しております。ほんとうにありがとうございました。

今いただきましたたくさんのご意見は、次期のまた子ども・子育て会議のほうでしっかりと反映させたいと思っております。またこれからもさまざまな面で皆様のご協力をいただくことはあると思いますが、またよろしく願いいたします。

代表で、もし誰か、どうしても言いたいという者があれば、よろしいでしょうか。

ほんとうにありがとうございました。またよろしく願いいたします。

○松田会長 ほんとうにありがとうございました。

新保委員には、来ているのかどうかということを毎回、ちょっとときどきさせながらというようなことで、いろいろなことはございましたけれども、ほんとうに皆さんに支えられる中で会長を務めさせていただきました。ほんとうに不十分だと自分で心から思うところはあるんですけども。

これは子ども・子育てをめぐる、この委員会と、それとほんとうに毎回、傍聴に来てくださった市民の皆さん、そして市役所という、この三者がしっかりと話をする場があるということ。これが形に流されるということもなく、実は幾つかの場所で同様の会議にかかわっているんですけども、これは決してどこでも同じことを言っているわけじゃなくて、小金井市は、非常にその意味では真摯に皆さんが話し合われる、実質的なほんとうの会議であると、これは誇りを持っていただけたらいいなとほんとうに思います。

ただ一方で、三者の立場というのはそれぞれやはり意見を言うべき立場であって、なれ合うということも、いささか問題が起こるときもあると思います。そういう緊張感の中でしっかりと話をしていくということがほんとうになされてきたんじゃないかなと思います。

市役所の立場というのは、まず、たたき台を出すんですけど、そのたたき台の範囲というのは、確かに、現実的にはさまざまな問題がございますので、範囲はあるわけです。しかしながら、今日も出ていますけれども、傍聴の皆さんのご意見や、あるいは、ほんとうにいろいろな立場からいろいろなご意見をくださる委員の皆様方の意見を聞かれて、何回も修正ということございましたし、僕のほうにもご相談があったりということとはほんとうにあって、そういう意味で、たたき台を少しでも皆さんとともによくしていくと、そういうような動きというのが小金井市のほんとうに特徴じゃないかなと思います。まだまだ、もちろん十分ではないところも多い、そんなえらそうなことを僕は言う立場ではないですけども、かもしれませんが、この伝統と、さらなる進化ということを目指して、次期にぜひ、ここはつなげていけたらなと思います。

私自身は子育てが共働きで、頼る者もなく、夫婦だけでの子育てでしたので、子育てというのはつらいなと思うときも正直あって、一番つらかったのは、全員が風邪にかかって、全員発熱していて、子どもがまだ1歳と3歳みたいな状態でしたので、誰が犠牲になって家事をやるかというような、1度でも高いほうとって、家内と38.4度対38.1

度みたいなそういうときがあった。そのとき、やっぱり負けたんですけどね、僕のほうが低かったという話で。そういうこともありましたけど、やっぱり子どもとの時間、子育てをしているという時間自体の持っていた豊かさというか、ほんとうに豊かさですね、この時間というのはかけがえのないものだ、今も、いつ振り返ってもそう思います。

ですから、そういうことをできるだけ多くの皆さんの力で、まさにそこに取り組み合っている方々に、子ども、あるいは親ですけれども、支えになっていくことをみんなで考えていくということを、ほんとうに広大な取り組みだと思っています。そういう意味でまだまだほんとうに課題がいっぱいあって、また次期ということになると思うんですけども、限りなく、小金井テイストといいますか、小金井スタイルということ誇りを持って進められるような会議になりますことを祈念いたしまして、今期の会議を終了させていただければと思います。

心残りなのが、今日、沢村委員がおくれていらっしゃると伺っているんですね。この会の流れからしますと、ちょっと今日は早くに閉じるという流れになっている中で、もし雨の中を8時半ぐらいにいらっしゃったら、終わったのかという話になると思うんですね。ですから、沢村委員のご発言とかご意見は、ほんとうに私たちが見えない部分をしっかりとフォローしていただくようなご意見が多かったと思いますので、一応、ちょっと沢村委員のお気持ちをここで皆さんで思っていたいで、それで沢村委員もご参画いただいたということで、大変、沢村委員ご自身はちょっと心残りになるかと思うんですけども、今日はこれで閉めさせていただければと思います。ほんとうにどうも皆さん、ありがとうございました。

最後に事務局のほうにお返ししたいと思います。

○子育て支援係長 今期2年間、まことにありがとうございました。以上で今期は終わりになりました、次期の子ども・子育て会議は8月以降にまた開催を予定しておりますので、引き続き、委員になられる方もいらっしゃるかと思いますが、その際はよろしく願いいたします。今期の委員の皆様には、どうもありがとうございました。

閉 会